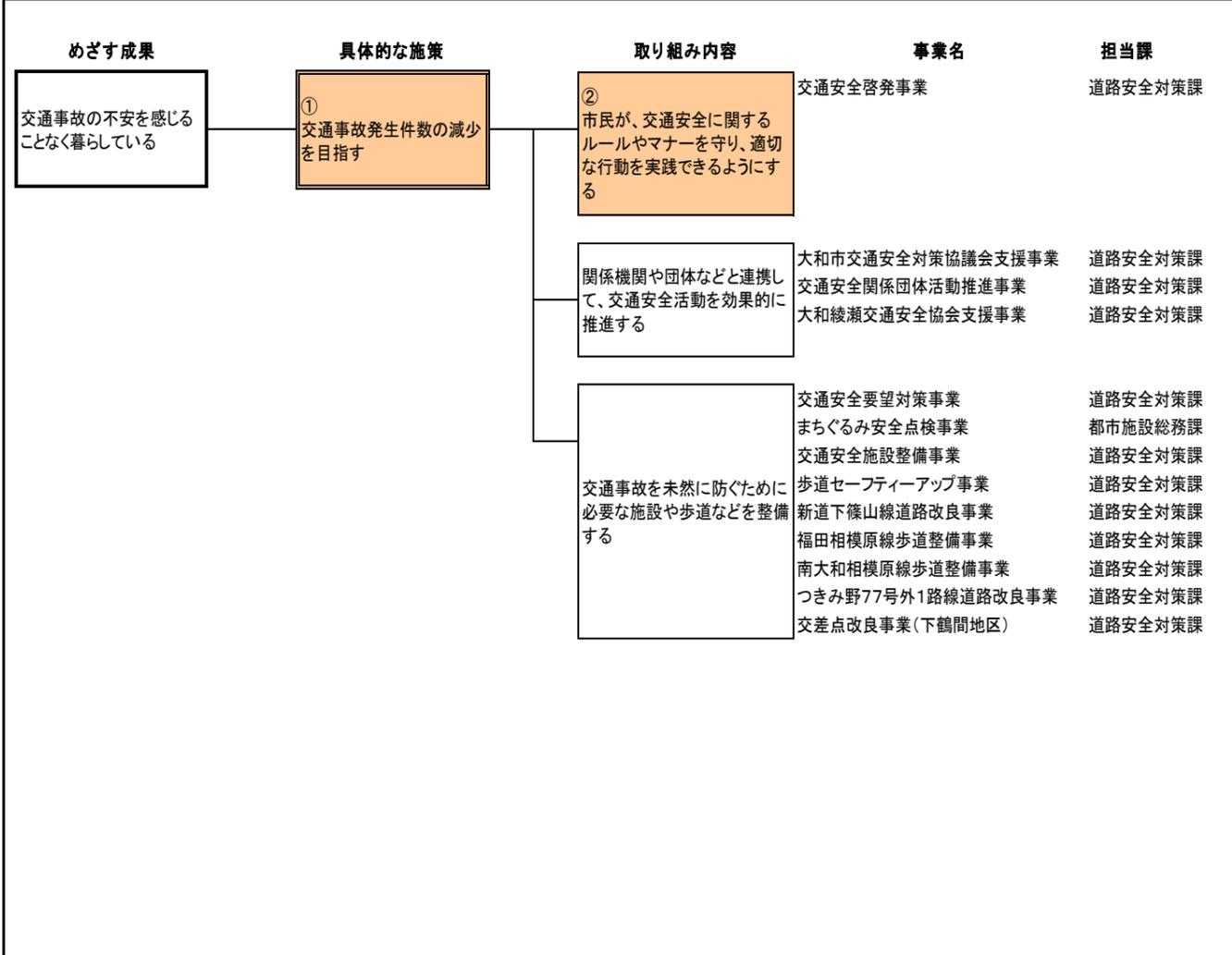


「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート

3-1-3 交通事故の不安を感じることなく暮らしている

総合計画体系	健康領域・基本目標	まちの健康・安全と安心が感じられるまち
	個別目標	生活の安全性を高める
	めざす成果	交通事故の不安を感じることなく暮らしている 交通マナーや交通安全への意識が高まるとともに、安全施設の整備が進み、交通事故の発生件数が減少しています。

「めざす成果」を達成するための施策展開（ロジックツリー）



総合計画掲載指標①		総合計画掲載指標②	
交通人身事故発生件数		交通安全教室等参加者数 (イベントを除く)	
計画策定時 現状値	1,499件	計画策定時 現状値	18,640人
実績値 (H22)	1,420件	実績値 (H22)	17,205人
中間目標値 (H23)	1,400件	中間目標値 (H23)	20,000人
目標値 (H25)	1,300件	目標値 (H25)	22,000人

「めざす成果」の達成に向けた進行管理シート

主な取り組み内容	<p>【交通事故発生件数の減少を目指す】</p> <ul style="list-style-type: none"> 春と秋の交通安全運動における街頭キャンペーン、市民まつりや産業フェアでの交通安全広場、交通監視所の設置等による啓発活動を実施しました。 小学校、PTA、自治会、老人会、企業等からの依頼により、市教育専門員、大和警察署員、県くらし安全指導員を派遣し、交通安全教育を実施しました。 自転車事故防止対策として、自転車安全利用講習会を開催し、自転車安全運転認定証の発行、TSマーク助成を行いました。くわえて平成22年12月からは、幼児・児童用自転車ヘルメット購入助成制度を開始しました。また、緊急雇用対策補助金を活用した自転車安全利用啓発員の配置も行き、自転車利用の啓発を図りました。 市民の要望、通学路点検、まちぐるみ安全点検などを基に危険箇所を摘出し、必要な対策（交通管理者への信号機や横断歩道等設置要望、注意喚起看板等の設置など）を行いました。 交通事故を未然に防ぐため、道路の改良、カラー舗装や道路照明灯等の交通安全施設の整備を図りました。
----------	--

構成事業に対する考え方 (事業の量及び実施手法)	<ul style="list-style-type: none"> 市内の交通事故発生件数は、9年連続で減少しています。しかし、自転車や高齢者の事故が依然多く発生しており、神奈川県自転車、高齢者による交通事故多発地域に指定されています。 特に自転車事故に対しては、自転車安全利用講習会や幼児・児童用自転車ヘルメット購入助成制度を開始するなど、安全に自転車を利用する環境づくりに努めます。また、高齢者の事故対策としては、引き続き交通安全シルバーリーダーを中心に高齢者交通安全教室や街頭指導を実施するとともに、市民に交通ルールの遵守やマナー向上を呼びかけていきます。 道路の安全な利用を目指し、道路構造の見直しや事故を未然に防ぐために必要な施設を設置するなど、交通安全環境の改善に取り組みます。また、まちぐるみ安全点検などにより、市民や各種団体との連携を図り、地域に必要な事業を選定し効率的に事業を実施します。
-----------------------------	---

今後の展開方針		注) 例年どおりの事業展開を予定している事務事業については、特段の記載をしていません。
新規事業の立案		(該当する事務事業)
既存事業の拡充	引き続き子どもに対する自転車用ヘルメットの購入助成を行うとともに更なる普及啓発を図ります。	(該当する事務事業) 交通安全啓発事業
事業の廃止・縮減		(該当する事務事業)
事業の効率化		(該当する事務事業)
その他見直し		(該当する事務事業)

施策への提言	
総合計画審議会記入欄	<ul style="list-style-type: none"> 自動車の運転マナーの悪さや、自転車の交通マナーの悪さの解決にあたり、青色防犯パトロール車が通るだけでも犯罪の抑止の効果はあると思いますが、現在実施している施策だけでは、十分対応できていない面もあると思われることから、さらに一歩踏み込んだ施策展開について検討する必要があると考えます。